

# わか草

東京都立東部療育センター  
院内報 第1号  
東京都江東区新砂3-3-25  
電話 03-5632-8070  
印刷 東部療育センター  
年4回 発行

## わか草の創刊への期待

東部療育センター 院長 有馬 正高



東部療育センターが開設された日は、平成十七年十二月一日と定められています。これは、職員や委託を受けた担当者がそれぞれの定位置について、本番の仕事の開始を待ち受けた日でした。都庁と大塚病院地区に分散していた職員が新築の建物に入り準備にとりかかったのは十月三日で、初めて見た真新しい内装に胸をときめかせたものです。約二ヶ月間は、多動な子供に危険と思われる場所の改修、運ばれてくる器具の振り分けなどの引越し入居の作業、受け入れのための記録紙などの作成、システムに沿ってお客を受け入れるリハーサルなどが続きました。

新施設は、時代と社会の強い要請を受けて生まれました。東部療育センターの設立に当たっては、重症心身障害のなかでも特に専門の医療と手厚い介護が不可欠な超重症児を東京都全域から受け入れるとの指示と、中核的療育施設がない区東部の障害児を支援する拠点にとの要請がありました。建築設計、機器、組織定員などの計画がその原則で進みました。

十二月から二月にかけて、第一次に予定された措置入所の受け入れが一段落し、地域支援のための短期入所も始まりました。

流感のある冬の開設で、もつとも危惧した死亡をゼロで乗り切り、初めて入所を受けた三階南、西病棟の職員が体験した極度の緊張感にも少しずつゆとりが見えるようになりました。入所の人達の声かけに対する笑顔も増えたように感じました。

四月から、第二次開設の仕事が始まりました。新しい職員も加わり、二階南、西の2病棟への受け入れ、バス送迎による通所新たな外来診療科の拡充、墨東養護学校の訪問授業、季節のお楽しみ行事、プール開

きと次々に始まり今日に至りました。外来を主とする受診者数が千百名を越え、療育相談も多岐にわたっています。

かつて開設に関係した私の体験では、新しい職員達が建物や職場の用語に慣れ、持場の器材の性能や使用に熟練するのに半年から一年、職場間の職員同志でお互いの仕事内容や気持ちが届く通じ合うには二年以上と感じてきました。

仕事の内容によって長短はあるにしても、開設の仕事は時間がかかり、一周年といってもその事業は道半ばと思います。

この時期に「わか草」が創刊されたのは本当に嬉しく思います。一緒に現在を共にしている職員は皆が若い気持ちで新しい職場を築く役目を荷っています。

これから、定期的に発刊されるこの広報誌が、そこに働く仲間の集いの場として次々に伝えられるよう期待しています。



# 病棟・通所の紹介

## 2階南

皆さん！こんにちは！なのはな病棟です。二階の南側に位置しています。西側には、広いテラスが広がり、夏には、色とりどりの花が咲き乱れます。東側には、物流センター、南には、新砂名物？の紅白煙突と眺望も変化に富んでいます。

今年の四月十七日にオープンしたばかりの新居に、現在女性十名、男性十一名の方と数名の短期入所の方が生活されています。病棟の一日は、にぎやかで楽しい朝食から始まり、訪問学級にお風呂、午後からの療育活動など多くの刺激と笑い声に包まれています。

ご家族の方も交えながらの日々の暮らしの中には、演歌からジャズまでの調べが緩やかに流れ、二十四名の職員が、より良い生活空間を目指し模索しています。

課題も多く、まだまだよちよち歩きの私たちですが、来春の黄色く可憐ながらも力強いなのはなが咲きほこる季節には、よりのんびりと安全で楽しい生活が軌道に乗るよう努めてまいります。

風通しと陽当たりの良い、なのはな病棟をこれからどうかよろしくお願い致します。



なのはな

## 2階西

二階西病棟（通称 こすもす病棟）は東部療育センターの一次開設から四ヶ月後の平成十八年四月に開設した新しい病棟です。看護師十八名、生活支援科六名の総勢二十四名でほとんどのスタッフは療育が初めてです。

利用者は四才〜五十六才までの重症心身障害児者で、超重症児者及び準超重症児者の方が半数以上を占めている現場では、スタッフが一人となり、利用者のための療育を日々展開しています。

病棟の名前の「こすもす」の語源はギリシャ語の「秩序」「美しい」という意味の「Cosmos」の言葉に由来しています。

すもすの花に恥じない病棟にすべくみんなで力を合わせて頑張っています。また、花言葉は「少女の純真」の様に初心を忘れる事なく、常に利用者主体の療育を全スタッフが日々研鑽しております。



こすもす

## 3階南

「おはようございます」利用者の方の満面の笑みと職員の元気な声のやりとりで三階南ちごゆり病棟の一日が始まります。

病棟が開設して一年・初めの頃は、お互い緊張していて硬かった表情も、今では自然な笑顔でコミュニケーションが取れるようになりました。入所者は二十六名、

その他は医療・短期利用者が入所されています。呼吸器を利用している方、コミュニケーションボードでお話の出来る方等その上、年齢や状態は様々ですが、一つの病棟（家庭）の中で、お互い支え合いながら毎日

日を大切に生活しています。

開設から今日まで職員一同ただ無我夢中で一日一日を過ごしてきました。今後は、もっと利用者の方一人ひとりのニーズに応え、更には、個性を重視した看護・療育を行っていきたく考えます。常に利用者の安全を第一に考え、楽しく豊かな生活を送れるような病棟を作っていきたいと思っています。そして、利用者のご家族、職員みんなが笑顔でいられる、そんな病棟になれたら素敵だと思います。



ちごゆり

## 3階西

三階西ひなげし病棟は入所者二十三名が暮らす病棟です。そのうち二名が就学前児で訓練科のグループに週二日参加、学齢児五名が週三日の訪問学校教育を受けるリズムで生活しています。

その他の十六名は体調に問題がない限り、その殆どの方が皆さんが日中は、デイルームに集い過ごします。平日は順に入浴があり、これは誰もが楽しみにしているのがわかります。午前中はゆったりと音楽を聴きながら過ごしますが、午後になると時にはみんなで騒がしく歌い盛り上がり、エアートランポリンに乗り身体を動かしたり、それ

それに合った創作活動に取り組むなどしています。

看護師の比率が高い病棟ですが、スタッフ一丸で、より質の高いケアの提供に留まらず、毎日とはいかずともそれぞれの好きな事・やりたい事の実現を援助して行けるよう試行錯誤している最中です。

いつでも利用者ごとご家族、スタッフが一体となり育み合う、安全で楽しくかつ日々を期待の持てる病棟を目指しています。



ひなげし

# 療育風景



オータムフェスティバルでのひととき



プールでのひととき

# 通所

今年の四月三日に開設してから、あっという間に六ヶ月が経過しました。この間ソフト面、ハード面で様々なことがありましたが、保護者の方々やセンターのバックアップがあり、何とかクリアしてきました。現在二十二名の方が通所されています。七割近くの準超重症児(者)・超重症児(者)の方たちに対して、医療面、生活面でのサービスを提供しています。医療面では、毎日の健康チェック、注入、吸引等安全・安心な医療環境を提供しています。活動面では、運動・視聴覚・創作・感覚刺激・散歩・ミニコンサートなどを行い、皆様の生活空間の広がり大切にしています。

その他、リハビリテーション、バス送迎、入浴、給食サービス等も行われています。通所としてはまだまだ不十分ですが、重度化の進む在宅の重症心身障害児(者)の方たちが、地域の中で安心して生活して頂けるように、より質の高いサービスを提供していきたいと考えています。



通所の遊び場

# 設備紹介

**施設設備開放について**  
 プール開放は、今年度は初年度でもあり、七〜九月の夏の期間のみの利用としました。七〜八月にかけてプールの説明会をし、実施は、九月から一グループ及び二団体が各一回のみの利用だけで、終わりました。しかし、利用者からは、好評を頂きましたので、検討した結果、再開始し、通年利用することが出来るようになりました。

通所の浴室を開放します。月・金曜日の週二回の午後、通所終了後です。事前の申し込みが必要です。個人で所定の申請書に記入の上、お申し込みください。なお、医師の意見書が必要になります。スノーズレン室は、二階リハビリテーション科のスペースの個別指導室がスノーズレン室になります。毎月第三土曜日午前三つの時間帯に分けて開放します。なお、お申し込みは、事前に個別にお願い致します。プレイルームは、毎月第三土曜日の午前を二つの時間帯に分けて開放します。事前にグループか団体でお申し込みください。以上四ヶ所の設備開放を行っています。ご希望の方は、地域療育支援室の担当者にご連絡ください。



写真4



写真3



写真2



写真1

プール  
 (写真3: プール入口)  
 (写真4: プールの窓から)

プレイルーム  
 (写真1: 照明時)  
 (写真2: ミラーボール使用時)

今回は作業療法スタッフから「スノーズレン」を紹介します。

スノーズレンって聞いたことがありますか？「スノーズレン」はもともと重度の知的障害を持つ方々との関わりの理念として、一九七〇年代半ばにオランダにある知的障害をもつ方々の施設で生まれ発展してきました。スノーズレンという言葉は、オランダ語の「スツフレン：くくんくんする」と「ドゥーズレン：うとうとする」という言葉からできた造語です。

スノーズレンの指し示す状態は、例えば、さわやかな草の香りの草原に寝転び、日光やそよ風を楽しんでいるような、くつろいだ状態です。

具体的な活動は障害を持つ方が感じ取りやすく、楽しみやすいように環境の中で光・音・音楽・様々な感触素材・香りなどの刺激を揃えて提供します。その中で、障害を持つ方自身の活動のペース、人や物への対応の仕方があるままに受入れ、障害を持たない人も共にその場を楽しみ、そして、互いの感じ方や喜びを共有して関係を深めていきます。「共に楽しむこと」がスノーズレンの主眼です。

東部療育センターでは平成十七年十二月の開業から、スノーズレンの部屋を設置し、今後は地域に開放していく予定です。皆さんも「共に楽しんで」みませんか。

## Cutting edge



写真3 ウォーターベッド(ミュージックバイブレーション)



写真2 バブルユニットとサイドグロウ



写真1 ブラックライト

## 編集後記

わか草第一号を無事発行しました。広報誌の編集などに携わった経験はありませんでしたが、院長先生が誌名を決めてくださったことをはじめとして、皆さんのご協力で何とか無事誌面をうめることができました。寄稿していただいた方々と編集委員の方々に厚く御礼申し上げます。療育センターの広報誌としても独自色を出し、東部ならではのよい誌面を作っていきたいと思っておりますので、愛読よろしくお願いたします。